



民児連 はこだて

函館市民生児童委員連合会広報委員会

渡島管内民生委員児童委員専門研修に参加して



9月10日(木)民生委員児童委員専門研修が函館市民会館大ホールで開催されました。

今年の専門研修は、新型コロナウイルスの影響に伴い開催が危ぶまれましたが、予防対策と参加者の協力により180余名が参加しました。

開会挨拶後、最初の講義は「これからの民生委員児童委員活動について」と題し、名寄市立大学社会福祉学科准教授 長谷川武史氏を講師に迎え、コロナ禍の社会情勢で民生委員児童委員の活動について提言があり、その中でリスク社会環境がもたらす現象を解り易く解説するとともに、現在置かれている「集う、つながる」ことが制限される現状の代替策など、今後の活動の参考となりました。

また、講義2は、北海道民生委員児童委員連盟事務局次長の長谷川稔氏による「民生委員児童委員活動と個人情報保護法」について、個人情報保護法の解説、プライバシーとの相違などが事細やかに述べられ、最後は民生委員児童委員の活動のためのポイントを確認して専門研修を終了しました。

(広報委員 武田 忠夫)

全道児童委員活動研究集会

8月19日(水) 旭川市民文化会館大ホール

2月からの新型コロナウイルス感

染拡大を受けて、マスク着用、検

温、手指消毒、ソーシャルディ

タンスとさまざまな対策の中で、よ

うやく今年度初の研修会、全道児

童委員活動研究集会が8月19日旭

川にて開催されました。

函館からは2泊3日

(8月18日〜20日)の予

定で29名が参加し、2

台のバスでの移動中も

マスク着用を心掛け静

かでした。

19日の研究集会は、

感染予防のため不参加

や人数減の市町村があり

ましたが、全道から34

0名が出席しました。

会場入り口では、検

温、手指消毒が行われソーシャル

ディスタンスをとった指定席には

資料が置かれていました。

午後から開催された研究集会は、

基調講演、パネルディスカッショ

で続きました。

基調講演は、「コロナ禍における

子ども、子育て支援の視点」と題

して、社会福祉法人北翔会理事長

の大場信一氏の講話がありました。

子どもと接する時の心構えや子

育てについて色々な分

野の著名人の言葉と共

に、子ども達の心に寄

り添う活動をと、講師

の思いを話されました。

休憩を挟んでパネル

ディスカッションに入

り、パネリスト3名は、

旭川市から「オレンジ

リボン運動の取り組み」、

鷹栖町から「ハッピーメッ

セージ運動の取り組み」、

留萌地区から「管内主

任児童委員研修会の取り組み」と

題して発表がありました。

1人10分の持ち時間をオーバ

ーする方が出て、ディスカッション

の時間が無くなり、コーディネート



の鳥居一頼氏が、我が子のこと、我が子以外の子、どんな子にも同じ思いをもって寄り添って欲しいですと話され、時間切れとなりました。

最後の講演は「笑顔でつながるネットワーク」家族・地域・みんな子育てと題して、大阪教育大学教育学部教員養成課程家政教育講座准教授の小崎恭弘氏が講師を務めました。育児父さん、子育て

パパに関する多くの著書を出し、知る人ぞ知る有名人で、体験談を交えてテンポよい大阪弁で話されました。

社会の状況や環境が多様化し生き方もそれぞれ違い、何が起きても不思議ではないのが現在です。こんな社会の中での子育てって、親は子が何歳になるまで面倒を見

ないといけないのかと問いかけがありました。

本来子育ての最終目標は親離れ子離れなのに、今はお互い自立できていないのではないのでしょうか。

社会の変化に対応できる子育ては生き方を教えることができる親を目指すことです。

子どもが豊かに生きていける社会は安心安全な社会、この様な地域社会を育てて行くのが地域で活動している民生委員児童委員の仕事ではないでしょうかと話され、講演終了となりました。

3名の講師から、コロナ禍の中で子ども達が抱える多くの問題が提示され、解決策として寄り添うことの大切さ、児童委員としての心構えも学べた研究集会でした。
(広報委員 佐藤やよ子)

コロナ禍における

民児協連絡会の開催状況について

令和2年2月26日付けで、函館市から、新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、毎月各民児協会長・副会長を集めて行う「民児協連絡会」を3月は中止、延期あるいは規模縮小などの措置を講ずるよう要請がありました。

当連合会としては、民生委員の健康と安全を第一に考え、3月の民児協連絡会は中止とし、資料配付のみを行いました。

その後は、「密閉」「密集」「密接」を避けるため、これまで会場としていた函館市総合福祉センターの会議室から、収容人数が多い市民会館や亀田交流プラザなどに変更して、民児協連絡会を開催しています。

(民児連事務局)

↓ 函館市民会館小ホール



↑ 亀田交流プラザ講堂

民生委員児童委員活動推進講座

子どもを育む地域づくりと福祉教育を考える



8月28日(金) 函館市民会館小ホールで渡島管内の各民

児協から委員約100名が参加し「民生委員児童委員活動推進講座」が開催されました。

講師の日本福祉大学教授の野尻紀恵氏が、広範な経験と知見から福祉教育に関する講義「子どもを育む地域づくりと福祉教育を考える」を行いました。

子ども達への切れ目のない支援を実践するには、「学校にこられない、子どもが精神的に不安定、虐待や発達障害に起因する問題がある、保護者の対応に困る、どこに頼っていいかわからない、自分の家のことなど誰も助けてくれない」など様々な不安や困り事に直面した時こそ、一人で抱え込んで解決できない問題を支援し、その支援者と連携して学校を基盤にした生徒の問題に寄り添い、家庭の環境面

への働きかけを行うのが(スクールソーシャルワーク)福祉の仕事だと云います。

ひととしての尊厳、つながりふれあい学び合いのあるまち、みんなの楽校、防災福祉教育、子ども食堂など地域で実践している福祉についても紹介。

中学校行事の事例『赤ちゃん抱っこ体験』では、実際に赤ちゃんに触れ合う体験が命の重さや大切さを実感させられるきっかけになると、周囲からの反対を押して、子育ての喜びや命の尊さや家族の絆の大切さを感じ取り、親の役割を考える機会として、将来親になるための準備教育として、現在はこの体験行事が他地域でも拡がりをみせ毎年実施しているそうです。

大変印象的だったのは、久しく不登校だった茶髪の女子生徒が赤ちゃんを抱っこしている1枚の映像。赤ちゃんを生徒が互いの顔を見つめ合い、セーラー服の襟をつかんで不安そうに抱かれていた様子のこの写真が、生徒の

置かれている家庭の日常を彷彿とさせて胸に迫ってきます。

この事例では、参加した中学生全員が抱っことおんぶを体験します。赤ちゃんに泣かれてしまい、戸惑う中学生もいたり、あやし方がうまくて赤ちゃんを寝かしつけてしまう中学生もいたそうです。

多くの研修が止むなく中止されている中、今回の講座は参加者を限定して、マスクの着用や検温、間隔を空けて着席するなど、新型コロナウイルス感染予防と熱中症予防対策に十分配慮して開催することができました。

(広報委員 稲村 耕三)



令和2年度

民生委員・ 児童委員功労者 感謝状授与式

毎年5月に開催している函館市民生委員・児童委員大会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため規模を縮小し、令和2年5月15日(金)函館市役所6階市長会議室で市長感謝状授与式のみ行われました。30年勤続1名、20年勤続2名、10年勤続4名が受賞され、うち3名の方にご出席いただきました。
(民児連事務局)



令和2年度 民児連定期総会を 書面総会に変更して実施

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年5月20日に函館市民会館小ホールで開催を予定していた「令和2年度定期総会」は密閉、密集、密接のいわゆる「三密」を避けるため、例年実施している一堂に会する審議方法ではなく、書面で議案を表決する書面総会に変更して実施いたしました。

書面総会は、理事および代議員176名に書面表決書を郵送し、議案第1号以下7件について表決していただき、その結果、反対はなく全て可決されました。

- 議案第1号令和元年度事業報告
- 議案第2号令和元年度一般会計収入支出決算
- 議案第3号令和元年度特別会計収入支出決算
- 議案第4号監査報告
- 議案第5号令和2年度事業計画案
- 議案第6号令和2年度一般会計収入支出予算案
- 議案第7号令和2年度特別会計収入支出予算案

(民児連事務局)

編集 後記

暑さにマスク着用と、ダブルパンチの夏が終わってもコロナ感染は落ち着かず、9ヶ月が経ちました。この間、多くの大会、研修会等が中止となり、広報紙は発行できずのかと心配しました。

ページ数を減らしても取り組み、皆様のご協力でなんとか第76号発行となりホッとしております。ご協力ありがとうございました。冬の訪れと共にインフルエンザも加わり、一層気の抜けない日々が続きます。ご自愛ください。
(広報委員長 佐藤やよ子)

発行所 函館市民生児童委員連合会
 広報委員会
〒040-0063 函館市若松町33番6号
 函館市総合福祉センター3階
 TEL (0138) 26-8306

発行責任者 会長 船橋優子

印刷 (株) 長門出版社
 TEL (0138) 52-2461